
魔法少女リリカルなのは 交じり合う狂気

わいていー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 交じり合つ狂氣

【NZコード】

N4096BA

【作者名】

わいていー

【あらすじ】

いつもいつもヘタな男子の主人公レイン。だがヘタレの癖に悲しんでいる女の子を助けてしまつ、あげくの果てにヤンデレに・・・。

レインはヤンデレに耐え切れなくなり逃げることにしたが・・・。初めての投稿っス！！応援、感想、アドバイス募集するっス！！

プロローグ（前書き）

初めての投稿っス！！ キャラ崩壊などなど原作が汚されるのが嫌なひとは見ないでほしいつス！！

プロローグ

S
a
i
d
?
?
?

もつ離さなここの温もり

・・・・・ キミだけに全部あける、キミが嫌なものケシテあける
・・・・・ だからワタシを見て・・・・・ レイ君

・・・・・なんで？？？？？？？？？？？？？？？？？

レ「僕がキミ達を・・・壊してしまった。フェイトも、はやて

・・・・・だから、僕はこの世界から・・・消え「消えて
も君を追うよ・・・絶対に」・・・
・・・フェイト・・・はやて・・・。
「

フ？「…………行くなら私もついて行く。

離さないよ私にはキミだけなんだから…………。」

は？「…………もちろん、うもも。」

死んでもついてくで…………。」

レ「…………。」

S a.i.d レイン

…………どうして、こうなつてしまつたんだろう。

ただ手を伸ばしただけなのに、涙を拭つてあげただけなのに。

…………こんなにも、狂つてしまつたんだろう…………。

…………僕は弱虫だからなにもできない。

…………ただただ、この恐怖から逃げるだけ。

早く早くはやくはやく…………この世界からきえたい。

レ「…………まだ?ソロー…………」

ソ（もう少し、お待ちくださいマスター……）

レ「…………わかった……もつ少しだけ時間稼ぎを「何してゐるの

?」「…………するから。」

な?「それから…………何してゐるの?」

…………こんな感じで

レ「君たちの！」と叫えてたよ・・・・・」

「うん、本当だよ」

・・・・・・・・・・うそだけど

いつもそうだ、嘘つてわかつてるはずなのに・・・簡単に信じて受け入れる。

それがとても懶い。何を考へていいのかわからぬ。

黒・・・すべてを飲み込むような色。

それも、3人共だ。

・・・・僕のことをすこと考へてしたらな、でしたら少し
分は呪われているのかとおもつたほどだ。

それも、これで終わり・・・・相棒であるソローと一緒に正しい世
デバイス

界に戻るんだ。

ソ「マスター・・・・・」

君は……やっぱり、僕に似合わないほど優秀なデバイスだよ……。

チラリ・・・と、なのは達を確認・・・・・

・・・まだ喜んでた。恐ろしいね。

魔方陣を展開・・・・

な・フ・は「「「一.つ.」」

レ「・・・最後に言ひておく・・・」

ヒコ
ン

・・・・・転送中。

レ「ねえ、ソロー・・・」

ソ「はい、マスター・・・」

レ「もうちょい、空氣よんでよ・・・あれぜつたい追跡フラグ立つ
ちゃつたじやん!!

何あの最後の「し」つて、僕だったら氣になつて眠れないよー!」

「!

騒ぎ出すレイン

それを、冷静に宥める自称マスターの人生相談役ことデバイスのソ
ローは・・・

ソ「だつて~」

レ「冷静じゃないジャンー！」

地の文にツツコンじやだめつス!!

レ「黙らつしゃい！」

レ「地の文が本当に黙るなー！」

・
・
・
・
・
・
・
Z
Z
Z
・
・
・
・
・
・
・
・
Z
Z
Z

レ一寝てるんかい!!

そう語つて優しく点滅する・・・・・グスツ・・・いいお母ちゃんつ
ス・・・

「いかがであります?」

あつ、 そうやつて無視するんですか？ いやな奴つづス

（一度このまま流されていきましょう。）

お~いそろそろお許しをいただきたいっス

レ「了解……で、ど」に着くんだ?」

ほつ放置プレイつスか、耐えてみせるつス

ソ(・・・・・・・・・・)

卷之三

• • • • • • • • • • • •

• • • • • • • **川** **川** •

二〇〇〇年九月

15

卷之三

アーヴィング・ビクター

あれ
する技を二つ
たはすなんすけと

そのとおり、まだレインはきずいていなかつた。

S a.i.d ヤンデレ達(なのま、フュイト、はやて)

な「・・・行っちゃったね

フ「・・・そうだね

は「・・・けど、レイン君はかわええな～

はやての手に握られている何かの場所を示している機械・・・その機械は起動している。

フ「まさか、レインが気がついてなかつただなんて・・・フフフ・・

「・
な「うん・・・／＼／＼／＼／＼／＼

なのはは、なのはで・・・・妄想ゾーン・・・

な「つけておいてよかつたな～・・・・発信機・・・

そう、あれは発信機

は「・・・でも、少しだけそつとしておいてあげへんとな

な・フ「「ビうじてー?」「

もつ卑く追いかけたいらしい（汗）

は「…………レイン君は…………残念やけでウチハ忍悲しつるや
んか…………」

な・フ「…………なるほど」

みんな何かを理解したようだ

な・フ・は「「「待つてレイン君」「「

プロローグ（後書き）

馱文つすね。

今回のプロローグで、アドバイスを募集するつス！！
亀更新かもしれませんが応援よろしくつス！！

キャラ説明つス！！（前書き）

小説書くのつて大変つスね！！

わかりにくいく困るので

説明つス・・・どうぞつス！！

キャラ説明つス！！

主人公

レイン・グラゴニース

13歳 性別 男の娘? 身長?? (いつも幻で変化しているから忘れたらしい)

本作のヘタレ主人公。

基本的には、逃げ腰だがお酒などでテンションが上がるどぶるあああああと、別人である。

最近は女性恐怖症になりつつある。だが、困つてしたり悲しんでいたら手を差し伸べちゃうフラングやろう。

身長をショッちゅう変えてヤンデレにばれないようにしている。魔法は主に幻術を使う。ものすごくリアルなのでヤンデレ（最強）相手にも十分有効。攻撃魔法は一切なく、

幻術一筋！！

髪は黒だが目は青である。

魔力光 灰色

魔力ランク AAA

近接ランク 測定不能（弱すぎて）

遠距離ランク C+（あればいいくらい）

特殊ランク SSS（幻術だけで）

レアスキル 「狂愛の心」 自分を死ぬほど愛する人に強大な力を与え自分したもの変わりに処理する。いわば多少洗脳状態。
ヤンデレが敵と判断

ソロー（インテリジョンスデバイス） 人格 女性

主人公レインのデバイス。

基本は冷静でありレインのサポートを行う優秀なデバイスである。

時々冗談をいつてレインのメンタル面もサポートを行っている。レインのことを一番に考えており、レインがヤンデレを自然に作ることを受け入れどうやつてレインを守るか考えている。形状はネックレスでありセットアップ時は鎖。

ヤンデレ（なのは、フェイド、はやて）

すでに、その身は「狂愛の心」によつて不老となつてゐる。

魔力量もすでに555オーバーである。髪の毛は黒く染まり目は赤く染まつてゐる。

デバイスさえも黒くそまつていて話す機能が消滅している。レインのことが大好きでたまらない。レインが人間に恐怖してしまつたため、一人残らず処理されている。なのは達は特にどうとも思つていな!

キャラ説明つスー！（後書き）

どうでしょうかりかいできたっすか？

理解できない所があつたら聞いてくださいーーー！

では、さいなら。

1話　えつ意味なくね！？（前書き）

最近は、ちょっとした感想がうれしいっス！！
心の励みになるんすよ・・・
これからも、応援よろしくッス！！

本編をどうぞッス！！

1話　えつ意味なくね！？

運命つて・・・最近残酷だとおもう

・・・・・ヒュン

とある場所に魔方陣が展開された・・・

レ「さてと・・・とりあえずは追跡されずにすんだかな？」

ヘタレ主人公、レイン君と。

ソ（・・・）「そうですね。とりあえずは、追われなかつたみたいですね。」

冷静沈着、自称人生相談役の優秀デバイス・・・ソロー様・・・登場！！

レ「で・・・ソローのことだから、もつこの場所が何処か・・・わかつてんんでしょう？」

ソ（・・・）「はい・・・ですが」

レ「ああ、いいよ。たまには自分で調べてみるよ。」

後に・・・レインはソローの話を聞いておけばよかつた思うなど・・・知るよしもなかつたらしいつス

S
a
i
d
?
?
?

私の名前は、高町なのは。

現在はPT事件が終わって、ゆっくりしている所です。今回の事件・・・色々なことがあってへトへトでした。フェイントちゃんとも連絡をとりました。まあ、そんな感じでいつもどうづに過ごして・・・。コーナーとお

な・く・「・！・？・」

な「・・・氣のせい?・・・じや、なによね。」

「うん……確かに魔力反応だ……管理局は今はいないはずだ

突如現れた魔力反応に、どうようする一人・・・

な「行かなきや・・・・だね。」

「…うん。」

反応があつた方向へ走り出す一人・・・

この時・・・なのは達は知らなかつた・・・

これが狂った運命の始まりたどは

S a i d レイン

人の反応があつたので、とりあえず向かうレイン君

とりあえず町に入るレイン君

そしてとりあえず、町を見た。

そして、レイン君の一言…

超怖いツス！！

あまりの威圧感に空間が歪みはじめたああああああああーー（気がするだけ・・・）

レ・・・・・ソロー・・・説明ヲ・・・。」

ソ（はい！）」は確かに海鳴市であります、パラレルワールド
だと推測されますー！」

レーヴ・・・・?パラレルワールド??

・・・・・ちょっと、どうしてわかるのかな～？（怒）

ソ（その証拠に、ヤンデレ達の強大な魔力が感知できません！！）

そう、ヤンクトレの反応は……である……。

レ・・・・フウ・・・・そつか・・・なら安心して生きていいけるね・

それに気がつかないレインもレインっすね。（汗）

? 「あの、すいません。」

・・・誰かが話しかけてきたつすね。

（マスター……誰かかなしがけた！？……マスター
申し訳ございません）

・・・ん、どうしたんだろう？

? 「 デビデビデビ いたんですねか！？」

な「はつはい？確かに私は高町なのはですけど……。」

ソ(まつマスターおちつ、おちつうううううううう！！)

お前も、すよ(笑)

ソ（マスター）には、落ち着いてください！－にはパラレルワー
ルドです。」

必死に伝える冷静（もう自称ツス）なテバイス・・・・

レーバーレル「リカルド? 遵? 可能性の世界? ヤンテレなし世界?

「はい……もう一度……」

そう、パラレルだからヤンデレであるはずがないっス！！

な「あつあの」

レ・ソ「「はつはい！！」」

S a i d なのは

なんだか怪しい人たちなの・・・

さつきから、なんか「ゴニョゴニョ」といってるけど・・・

な「少し、お話を聞かせてもらえますか?」

? 「・・・・・・・・・・・・」

む、失礼な人なの・・・

? (・・・・・すみません。マスターは女性恐怖症なので・・・私が代わりに代弁させていただきます)

・・・?。これはデバイスだね・・・。

な「初めてまして。高町なのは、てつ言います。」

ユ「僕は、ユーノ・スクライアです。」

ユーノ君・・・そついえば居たんだったね・・・

でも、自己紹介は大切な

? (はい・・・私はソローと申します。・・・マスターの名はレイ
ン・グラハムと申します。)

・
・
・
・
・
む。

私はレインさんに近づく・・・

レ
ひ
！
？

な「は・じ・め・ま・し・て。高町なのはですーー」

自分で紹介しないなんて・・・幾ら女性恐怖症でも・・・駄目なの
!!

レ「はじめまして…」

よし・・・・なの。

・
・
・
・
・
・
で。

な「これから、お話をさせてください・・・ね?」

レ・そ「「はつはいいい
・・・・」」

これからちやあああんと聞かせてもうつなの・・・

そんな、なのはにビクビクしながらついて行く人が一人と一つ見られたらしい・・・

1話　えつ意味なくね！？（後書き）

こんかいはどうですか？

・・・・文が短いツス

ユーノをマジ忘れてたつス・・・

これからも、応援や感想を募集つス

がんばつていいくつすよ～

2話 約束と迫づくる恐怖（前書き）

最近つらいことばかりです……

でも頑張ります……

本編始まるます……

約束と迫りくる恐怖

S.i.a.d なのは

あの後、ユーノ君とお別れして・・・・・

な「あのーーーけれども、どうぞ」とお詫びいたします。」

現在拷問中う

な「拷問じやないなの！！」

はい！！すいません～ス！！

レ「すっすいません・・・でもああするしかなかつたんです。」

彼は
・
・
・
・

な「……………」

「……………みんなに悪い顔をするの？」

な「何か理由があるなら相談してくれたこと。手伝えることがあります（あ
りません）……………」

彼のデバイスであるソローラさんが通る……………

ソ（……………どうしてあなたは、とまどいもなくマスターの心を傷
つけるられるんですか？）

な「傷つけなんか……………」

ソ（マスターのことを知りもしないで……………田舎者ばかりなこでへ
だせこ……）

……………そんなことわかつてぬ……………でも……………

な「話してくれなきゃなんにもわからなによ……」

ソ（……………）

な「何にも知らなによ……………終わらせたくなによ……………」

彼女は黙つてゐる……………

ソ（……………フフッ……………）

な「……………？」

ソ（・・・・・やつ等がもし・・・貴女の様なひとだったら・・・・・
マスターは・・・・・。）

・・・・・？？

な「・・・・・やつ等? やつ等? ていつたい・・・・・

ソ（私からはお話でできません・・・・・）

・・・・・（）で引いちぢやだめなの・・・・・・・・・

な「でも、それでも！－！わた（ですが！－）・・・・・？」

ソ「貴女がマスターの信じるに値する人なら・・・・・マスター・・・・・

レ「・・・・・信じないよ・・・・・」

・・・・・だつたら・・・・・

な「・・・・・私がもし・・・・・もしだよ? 貴方の信じるに値する人間に
なつたら・・・・・。」

レ「・・・・・いいよ・・・・・ありえないからね・・・・・

・・・・・せつた！－！－！

な「約束・・・・・だよ?」

レ「うん・・・・・・・・・・・・

Said レイン

ソ(マスター・・・・・)

「りや、『タレ卒業』すかね……」

な「グラゴニースさん・・・レイン君つてよんでもいいですか?」

レ「・・・・・？勝手にしていい（マスター・・・）・・・・何？」

ソローが話を遮る・・・・

ソ（マスター）： また同じ過ち（…）を繰り返すつもりですか

13

「いや、やはり駄目ですか？」

もじもじしながら言つてゐた・・・・怖によつ・・・・

な「レイン君は、学校は通つの?」

レ「学校?どうして?」

いらぬいんじやない?

な「だつてレイン君同じ年みたいだし、友達作つたほうがいいし···
···。」

···・ムカツ

レ「余計なお世話···！···それに今更、やつ等に処理された人たちにあつたって···。」

な「···・？」

ソ(マスター···)

ううむ···・···・···・···・···・···よし···！

レ「わかつた行つてみるよ···

な「うんうん···」

レ「···明日から行くから。」

な「わかつた···！絶対だよ···。」

レ「うん···」

···・なんで、みんなでゐるんだがう···

な「じゃあ、私家に帰るね……やつこそせば、レイン君の家はー。」

あ、そうだった……

レ「ソ」（問題）「やこません」……らしご……。」

本当に優秀なのがアホなのが……

な「あ、アハハ……。」

ちよつとの時間だけ平穏な空氣を味わえたレイン君。

……しかし、もつねの背後には狂いしの達が近づいてきている……。

Said ???

？「あの、なのは……処理しちゃひつていいかな？」

？「駄目や……せつしだけ我慢するんや……。」

？「自分なのに……恨めしい……。」

？「あんなん、いつでも処理できるやう？」

? 「 そ う だ け ど 」

? 「 今 は 、 我 還 時 や 」

? 「 早 く 」

? 「 完 璧 に 」

「 」

S a.i.d レイン

レ 「 」

ソ () 「 マスター ? 」

氣 の せ い

レ 「 何 で も な い 」

心 配 し な い で

ソ () 「 そ う で す か 」

そ れ に し て も

レ 「 学 校 か 」

ソ 「 本 当 に 大 丈 夫 で す か ！ 」

制服とか買うのかなあ
・・・・・フフツ
・・・・・

2話 約束と迫づくる恐怖（後書き）

レイン君学校・・・まあやりでもないんですね・・・

とこりとで、どうでしたか？

最近疲れが溜まつてたいへんっす。

次話がんばりますー！

3話 転入と交じり合つた雷光と狂つた星（前書き）

今日はちょっとだけ長いつス！！

本編をどうぞ

3話 転入と交じつ合ひた雷光と狂つた星

Said なのは

昨日・・・・・レイン君とした約束・・・・・。

な「絶対!! 信じられないって思わせてみせるの!!」

強く心に決めるのは・・・・・しかし、その選択が招く運命を・・・・・しるよしもなかつた・・・・・。

? 「お~い、なのは――――――!」

? 「あ、ちゅうとアリサちゃん急に走らないでよ・・・・・

あれは・・・・・・

ア「あ、じめんね・・・・・すずか。」

す「うん。なのせやんおはよ~」

ア「おはよ~。・・・・・それで何かあつたの?~」

ビクッ

な「な、なんでわかつたの?~」

なんでだら・・・・

アリサちゃんが顔にグリグリと手を押し付けてくる

な「アリサちゃんやめてなの~。」

痛い、痛いなの・・・

す。それで……本当にどうしたの?何か思いつめた感じだったけ

！？・・・ そうなの

な「アリサちゃん……おずかちゃん……」

ア・す「「な、何よ(かな)」「

な一 手伝つてほしい事があるんだけど・・・」

レイン君のことを説明中う（魔法のことを除いて）・・・。
な「それで、レイン君に信じてもうれるようひがめてほじいんだ
けど・・・。」

•
•
•
•
•
•
•
•
•
•
?

な「・・・ん?」

ア「なのは……やこのこと好きなの?」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・?

な「ち、違うよ……どうしてそんなこと……」

レ、レイン君とはお友達なの……

ア「ふ~ん……まあ良こわよ別に。」

す「私もだよ。」

な「うん……あつがとう……」

・・・・よかつたの

ア「ほら……れつあと行くわよ……。」

す「あ、また走つていくんだから……

な「ま、待つてよ~」

今日はレイン君が学校に来る……

な「がんばるなの……」

ア・す「なのは(ちやん)？」

あ・・・・・・

S
a
i
d
?
?
?

？「・・・・・そろそろ・・・かな？」

？「…………どうかしたの？な」「今私の名前は…………グリード…………なの」…………グリード…………。」

グ「ちょっと出かけてくるから・・・」

？——どこのくんや？・・・

タマリエ（……）ちゃんの所は……たよ？

？「・・・処理するの？」

「違うよ・・・ちょっとだけ様子を見に行くだけだから・・・」

? 「処理しちゃ 駄田やで？ ． ． ． フヒイタちやんは ． ． ． 」

「わかつてゐるよ・・・まだ（・・）使える」とへりい・・・「

? 「・・・・・すぐに帰つてくるんやで?」

グ「心配性だね・・・この世界に・・・私を殺せる人なんかいる

訳ないよ・・・

? 「・・・・・そつ・・・・・やな・・・・」

グ「じや・・・・・行つてへるね・・・・」

物語が動く今・・・・・一つの種みは動きはじめる・・・・・

S a.i.d レイン

レ「・・・・なんか久々な気が・・・・」

それを言つちやダメッス!!

現在ソローを置いてきている

「」の学校は転入試験があるらしく・・・・

席に着く僕・・・・

「はい、これから試験を開始します。」

レ「は、はい・・・・・」

転入試験開始ツス

レ「・・・・まあ、幾年も生きている僕には簡単だね・・・・

力キ力キ力キ力キ力キ・・・

一時間後

「せこ、それまでにしてくだせ。」

ん、やつと終わりか

「はい、プリントを少しみせてくれる？」

レ
ト
は
い
・
・
・
・
・

— ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

まだかな、
金額は決まりたるものでせんだけよ。・・・

卷之三

罪・非罪

（全語一 個す） すれどるのよれ（）

・・・・・ま、まさか不合格じゃ・・・・・さすがに小学生の問題だよ・・・
・・僕、とりあえず大人だよ・・・

ハア・・・（でも理解はしているから・・・大丈夫かな？）

・・・・ため息だ・・・は、ははは・・・とりあえずは大人のつも
りだつたんだけどな・・・・

「…………いやあ、会話を書つたび…………て、アレ?」

「…………グスツ…………」

ボク、カツコワルイ…………

「び、びうして泣いてるの!? (まさか…………不合格つておもつた
んじや)」

レ「グスツ…………僕は不合格…………何ですよね?」

もういいよ…………僕なんて…………

「(やつぱり!?) 落ち着いて!…………君は合格よ!…………」

…………えつ…………

レ「合格…………ですか?…………」

ホント?…………

「え、ええ。」

僕は、僕は…………

レ「大人でいられたよ

「…………はい?」

よかつた本当によかつた・・・

感動中うっス！！

「じゃあ、合格おめでとひ。君にはじの学校に正式に転入する」と
を許可します。」

レ「はい・・・」

ちよつと嬉しくかも・・・

「これから君のクラスの場所を教えるから、ちゃんとついてきて。」

レ「はい、はい（なのはとおんなじクラスかな？嫌だな～）」

現在移動中うっス！！

「レイン君いじよ・・・」

レ「はい・・・・・

レ「はい（なのはのクラスか～）」

ホント嫌だな・・・

「じゃあ、少し待つてて・・・」

Said なのは

レイン君もう来てるのかな~

「ほーい、みんなおせよ〜」わざわざ。」

あつ先生なの

「アーティストの才能を引き出すためのアートセラピー」

「今日みんなにグッティースですよ！……なんど、このクラスに新しいお友達が増えることになりました。」

L

「じゃ、入ってください。」

・・・ガラツ

・・・・やつぱり、レイン君だ！！

レ「初めまして、レイン・グラゴニスです。よろしくお願ひしませ

・・・・・これから、大変そうなの・・・・・

S a i d ? ? ?

森が広がる、とある管理外世界・・・

その世界に舞い降りる金色の髪の少女・・・

? 「こちからフェイトです・・・リンディ提督?」

フェイト・テスタークロッサ・・・彼女は無線を繋げる・・・

リ「フェイトさん・・・」めんなさね。突然頼んじゃつて

フェイトは地球に向かう途中にリンディ提督に仕事を頼まれたのである・・・

フ「い、いえ・・・全然大丈夫です・・・」

リ「そうかしら?」

そう言うとロンディあ微笑む

フ「それで・・・」こちら辺に魔力反応が?」

リ「そうよ・・・突如そこに巨大な魔力が現れたのよ・・・」

・・・・・何か・・・嫌な予感が・・・

リ「どうかしたの？」

フ「な、なんでもありません」

・・・・・気のせいだよね・・・

現在調査中

フ「なんにもない・・・かな？」

・・・・一田戻ろつか？・?

フフフフフフフフフフフフ

フ「な、なにこの魔力・・・」

・・・・・ありえないよ・・・」んなの・・・

ん？無線が・・・

リ？「・・・ト・ん・・・は・・・・にげ・・・」

フ「リンクティ提督！？」

・・・・無線が・・・切れちゃった・・・

フ「・・・・！？」

その一瞬全ての音が魔力による振動が・・・消えた・・・

・・・そして・・・声が聞こえる・・・

? - . イ . . ん . . . な . . . ノ

六
卷之二

今
な
て

卷之三

卷之三

卷之三

卷之三

ケ・私の名前はケーリー・ケラニ・君を待ってたよ!」

・・・貴女はなのはじやないの？

じゃあ、微笑む君は・・・・・ダレ？

3話 転入と交じり合つた雷光と狂つた星（後書き）

次はバトルを少し投入するつス！！

下手だけど次回もがんばるつス！！

4話 狂いしチカラと狂いし処理（前書き）

バトル・・・難しいツス！！

デバイスの英語は適当なのであしからずツス

では、本編開始ツス！！

4話 狂いしチカラと狂いし処理

Said フェイト

グ「フェイトちゃん………」反応ないなの……

今……私はなのは……違つ……グリード・グラムースさんと相対している……

フ「…………（でも……）」今まで一緒になんてあり得ない……

グリードは、なのはと瓜二つであり……違つといつて言えれば……

グ「きりいってる……」

フ「…………（髪は黒い……バリアジャケットも白じゃなくて黒……）」

グ「…………そろそろ、いいかな。」

フェイト……無視はいけないっス！！

フ「…………（それに、目も赤い……もしかして……クローンじゅ……）」

酷いっス！！フェイトちゃん！！

フ「あ、あの……お聞きしたい」とがあるんですが……」

本当にそうなり……

グ「ん？ 違つよ？」

…………え？

グ「…………私は…………クローランじやないよ…………フロイトぢやん失礼だよ……」

やつまつて微笑むグリード……

フ「…………（どうして！？まだ聞いてもないのに……）」

この人は…………未知数過ぎる……

フ「あの…………どうしてこんな所に？（確かに……私を待つてたよ…………言つたはず……）」

グ「ああ…………それはね……」

話をしながらも考え込むフロイト……

フ「…………（それに…………わつきの魔力…………私が狙いなら、残念だけど…………勝てない）」

グ「…………（やることがあつてね……）」

フ「…………（隙をついて逃げるしか……）」

フェイトは内心悔しがっていた・・・努力して強くなつたのに・・・
レベルの次元が違つたからだ

グ「一つ皿は・・・」

フ「・・・（今だ！）」

フェイトはジャンプし・・・

タツ・・・ビュン！-

今の自分に出来る最高のスピードで逃走する・・・

しかし・・・

シュン！-

フ「ー？・・・（かなり速く逃げたはずなのにー！）

グ「全く・・・勝手にどつかに行っちゃ駄目なのー！」

・・・・・いつたい

フ「ビュン！-

グリードのスピードをフェイトから見たら・・・瞬間移動と何ら変わらない速さだったからだ・・・

グ「ん？・・・ただちゅうと軽く飛んだ（・・・・・）だけだよ？」

フ「と、飛んだ！？転送じゃなくて！？」

それが本当なら・・・・

グ「うん、飛んだだけ・・・・」

フ「・・・・（・・・・駄目だ逃げられない）」

フェイトにはそのスピードに逃げ切れる実力はない・・・

グ「それでね一つ目は・・・・」

グリードは手に黒い魔方陣を展開する

フ「・・・・？けつ結界！？」

フェイト達がいた空間に結界が張られる・・・

グ「君を閉じ込める」とだよ・・・・・一つ目は・・・・・

フ「・・・・！」

ガキヤン！！

フェイトはバルディッシュでグリードが打ち付けてきた何か（・・・）を受け止める・・・・

グ「・・・・・君のチカラ（・・・）を・・・・見せてもらひ！」

「どうやー！」

ガキン！！

グリードは一度身を引き・・・もう一度打ち付ける

「クツ・・・（なんて重い攻撃！－あんな細い腕の何処にこんな力が・・・）」

そんな重い攻撃をしているにも関わらず二刀二刀している・・・
グ「・・・その程度?」

さらに力が加わる・・・

「うう・・・（押し負ける！）・・・ハア！？」

フロイトは一旦離れて・・・すぐに槍型のスフィアを構成・・・そして・・・

「ファイアー！」

ヒュン

打ち出す・・・だが・・・

避けもせずただこちらを見ている

ドガガガアアアアン

フ「えつ・・・・・・・・」

周囲に爆発によつて起きた煙が充満している

なら・・・・・今のうちにと思つたフェイトは・・・・・

フ「ファイア！・・・ファイア！・・・ファイア！・・・」

打ち続ける・・・

フ「バルディッシュ！・・・ザンバーフォーム！・・・

バ(Yes·sar)

バルディッシュが剣型に変形する・・・

フ「雷神！・・・

魔方陣を展開し剣を振り上げる

バ(SmasyZanbar)

そして・・・その剣を振り下ろす・・・

フ「はああああ！・・・

ザン！・・ズガガガガガガガガ！・・ドゴオオオ

斬撃によつせらに爆発が起つる

フ「ハアハア・・・・魔力反応はなかつた・・・プロテクションも
使つてない・・・全部直撃・・・」

幾らなんでもこれだけ当たれば無傷じやすまないはず・・・
しかし・・・

フ「! ? バ、バインド! ?」

煙が晴れる・・・そこには無傷のグリー^ドがたたずんでいる・・・
グ「・・・やつぱりこの程度のチカラだつたなの・・・」

残念そりて感く・・・

グ「フ^トイトちゃん・・・^ト田は・・・圧倒的な力量の差を見せ
付けることだよ! !」

ビュン! !

グリー^ドは大きくフ^トイトから離れる

グ「・・・・・・・いぐよ・・・」

グリー^ド手から4つの大きなスファアを魔方陣なし(・・・・・)
で出現させる・・・

フ「え! ?」

フェイトは突如バインドから開放される・・・

出現したスフィアから魔方陣が出現する

グ「ジエノサイド・・・ブレイザー・・・ファイア!!!」

シユイイン・・・ドゥウウウン!!!

その魔方陣から、なのはのディバイン並みの砲撃が放たれる

フ「砲撃・・・」の距離なら避けて・・・

フェイトは上に回避したが・・・

グ「・・・甘いよ・・・」

突如砲撃が屈折する

フ「そんな!・・・砲撃が曲がるなん!」

そして、フェイトは漆黒の光に貫かれた・・・

S a i d グリード

グ「・・・これで、終わりだね・・・」

・・・・・さてと、フェイトちゃんも落ちたことだし・・・・も
う・・・・・ガマンテキナイ・・・・

グ「レインクンガ・・・・ホシイホシイホシイイイイイイ
イイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイイ

「

「デモダメ、マダ・・・・レインクンハ・・・・・

ハヤク・・・・コノ強欲（グロード）をオサエナキヤ・・・・

「デモドウヤッテ・・・・

グ「・・・・・ソウダ・・・・コノホシヲ処理シチャウナノ・・・・

トリアエズ・・・・・フェイトちゃんヲマモツテ・・・・

グ「処理・・・・・カイシ・・・・・

サア・・・・・強欲（グロード）ニミヲマカセルナノ・・・・

S a i d フェイト

・・・・・・・・・クンクン・・・・・?

何か焦げ臭い・・・

私は目を覚ます・・・

そして目に映るものは・・・

フ「え？・・・何・・・」れ・・・

黒い炎で燃える森が視界に入る・・・

フ「どうなってるの？グリードは・・・」

周りを見るが炎しか見えない・・・

フ「とりあえず、飛んで周りの確認を・・・」

タッヒュウ

フ「・・・・・酷い・・・」

見はたす限り炎だらけ・・・

この森だけではなく、この星が燃えていた・・・

フ「・・・・・一日リンクティさんのもとに行かなきゃ・・・」

フェйтは転送の準備を始める・・・しかし、後ろから・・・

グ「・・・・・ハハハハハハ

フェйтは後ろを振り返る・・・

かなり遠い場所だが確かにいる・・・

3 対 漆黒の鎌を背中から生やすグリードの姿・・・

フ・・・・・狂つてゐるよ・・・グリードさん・・・

フロイトは転送し離れる・・・・この処理された世界から・・・・

4話 狂いしチカラと狂いし処理（後書き）

どうですか？」のバトル・・・

おかしい所があつたらアドバイスよろしくシス！！

では、次の投稿もがんばるシス！！

5話 大きな決意（前書き）

今日は頭痛が酷いッス・・・

もしかしたら、変なところがあるかもつ

それでも頑張るつス！！

本編どうぞっス！！

5話 大きな決意

Said なのは

転入してきてからレイン君は変わらず・・・

ア「あんた・・・お弁当食べるかい一緒に来なさいって行つてるで
しょー!」

レ「拒否する、麻痺薬が入ってるかも知れないからね・・・特に君のは。」

ア「入つてゐるわけないでしょうが！！」

卷之三

卷之三

ア・それは最初の挨拶は何なのよ！！

ア「この！！」

アリサちゃんがレイン君に手を伸ばす・・・

その時レイン君の目が・・・恐怖に染まる・・・

レ「・・・嫌だ!!」

バチン!!

レイン君がアリサちゃんの手を叩き落とす・・・

ア「イツ!!・・・な、何すんのよ!!」

な「ア、アリサちゃん!!」

ア「ー?・・・」の「」めん・・・」・・・え?」

レ「少しだけ・・・一人にして。」

すっと離れてどこかに行くレイン君

な・す「アリサちゃん・・・」

ア「・・・」の「」まで酷いの?女性恐怖症は・・・

な「・・・うん・・・」

す「凄い拒絶の仕方だつたね・・・

それにも・・・

な・す「アリサちゃん・・・」

・・・・・・・・・・・・

ア「わ、わかつてゐわよー! 謝つて来るわよ・・・

な「私も一緒に行くよ。」

す「私も行くよ。」

青春つすね~

S a i d レイン

あの時・・・何故手を叩いたんだろう・・・

レ「・・・そうか・・・あの時か」

少しだけ想い出す・・・やつ等の事を・・・

僕はただ・・・いつも道理に生きていただけだつた・・・

いつも道理一人で起きて・・・一人で食事して・・・一人で寝て・・・
・・・大嫌いな人間に会わない、いつも道理の毎日を満喫していた・・・
・

だけど・・・その日常は簡単に終わりを告げた・・・

いつものように、着替えて外に出かける・・・

目の前に広がったのは・・・静かに滅びていく町

町は・・・空を飛ぶヤツの翼・・・3対の漆黒の鎌で切り倒され
ていく・・・

逃げ惑う人は・・・竜のような漆黒の翼を持つヤツに刈り取られ
ていく・・・まるで雑草を切るかのように・・・

山などの自然は・・・3対の漆黒の翼を持つヤツに抉られていく・
・・・

僕はただそれを見ていることしかできなかつた・・・

しばらく立つと……ふと……全ての音が消えた……

そして、ヤツ等が僕の前に舞い降りる……グリード……

グ「この世界を後回しにしたけど……」

?「…………これで、全部…………」

?「…………処理…………完了や…………」

…………。

レ「…………グリード…………ペイン…………Hンド……」

グ「私は…………なのは、なの…………でも君がそう呼ぶなら…………」
私は強欲なんだうね。」

ペ「そつか…………私はフェイトじゃなくて…………絶望なんだね…………」

H「うひの前…………はやて、何て言つた前やめて…………君がくれ

た終焉ヒンドつて名前に変えるで……いつか……」

彼女達は血で染まつた顔で微笑む……

レ「ビ、どうして」「んな」と……」

グ・ペ・エ「……？」君が願つたから……」「

彼女達は僕を見る……

レ「……へ？」

グ・ペ・エ「……君が人間が嫌いだから……全ての
人間を処理したんだよ（やで）？」

レ「そんな……そんなのって……」

グ「もう誰もいないよ……」

ペ「全次元世界の人間を……」

エ「処理したんやからな・・・」

彼女達はこゝちに血に染まつた手を伸ばしてくる。・・・

グ・ペ・ヒ「・・・・・もう・・・生きてゐ一ソゲン（・・・・・）は・・・・私達しかいないんだよ（やで）~」

・ あの頃を思い出すと・ 今でも思つ

レ「…………狂つてゐる…………」

• • • • • • • • • • •

ア「ちよつとアソターー！」

な・す「「アリサちゃんーー！」」

また、あいつ等か・・・

レ「…………何？」

ア「や、 セツキは悪かったわね…………」

・・・・・ ああ・・・・・

レ「何で……バングスが謝る……悪いのは僕だろ?」

意味がわからない・・・

ア「アンタに嫌なことをしちゃったから・・・」

レ「セツ・・・」(つむりも叩こちやつて)「めんね?」

セツ(言つて)アリサの手を擦る

ア「ア、 アンタ何してるのよ――――――――――

レ「何? 驄目なの?」

な・す「何か・・・私達空氣になつてるの(るよ)・・・」

レ「なのはもすずかも」(めんね、 迷惑掛けちやつて)・・・

笑いかけながら話すレイン・・・

な「別に全然大丈夫なの(な、 何か胸がキュンキュンするなの)――――――――――

す「うん、 そうだよ(この気持ち・・・感じ外・・・だよね)――

/ / / / / / / /

ん? 何か視線を感じる・・・

アーティスト

レーベン「アリサもね」

レ「君達は・・・いい人だね・・・」

な
・
ア
・
す
・
・
・
・
・
え
つ
/

微笑むレイン

九月三十日

「たけに聞いてもししい？」

な
ん
何
か
な
ん

レ「・・・・君達は、たつた一つの願いのために全てを犠牲にすることができる?・・・他人まで不幸にして・・・しかも、自分の

願いでもないのに……

……………」それで、もしできると誓つたら……やつ等と回じだ……

・

ア「そんな事、出来る訳ないじゃない……」

……………。

レ「……………どうして？」

ア「そんなの当たり前じゃない……その全ての犠牲つてやつに……
私の大切な人がいるからよ……」

す「私もアリサちゃんと同じだよ……」

……………なのは……。

レ「君はどうなんだ？なのは……」

な「私もきっとアリサちゃんと同じだと思つよ……」

……………。

レ「それが、自分を救つてくれて……自分の最も愛する人でも？」

な「…………え？」

レ「君が一人の時、ずっと側に居てくれた人でもか？」

な「・・・・・・・・・・・・・」

「君が家族に迷惑を掛けまいと、公園で泣いてるときに遊んでくれた人でもか？」

な
—
・
・
・
・
・
!?
「

レ「君が大切な親友に秘密を言えずに苦しんでいるとき・・・助けてくれた人でもか？」

レバ何とか言つたらどうなんだーー

な - わからな - いよ 「

「…………やつぱつ、頬は「でもね…………」

な「それでも、さうとアコヤがちやんと回じだとおもひな？」

「あせあせあせあせあせあせ…」

な「な、なんなの？」

レ「ふう、『めんね僕が馬鹿だったみたい』・・・

何でこんなに・・・いい子何だろ?」・・・

な・ア・す「「？」「

ねえ・・・何で君達は狂つてしまつたんだろうね・・・

でも、それはきっと・・・僕の所為だったんだろうね・・・

・・・・・・・・・・・・

レ「僕は一田帰るみーーー。」

な「な、なんで?」

一回救つたんだ・・・

レ「君達のおかげで目が覚めたよ・・・なのは・・・

捨てたりなんかしない・・・

な「・・・・?」

レ「きっと・・・きっと話すからーーー。」

な「・・・・・・・・?」「うんーーー。」

何度も何度も何度も

救つてみせるからーーー！

レ「じゃ、またねーーー！」

ダッ

走り去る僕・・・

レ「もう、迷わない」

広い空き地に入る・・・

レ「・・・・・居るんでしょ・・・・・強欲・・・・・絶望・・・・・グリード・・・・・ペイン・・・・・エンド・・・・・

今ならわかる・・・・

ヒ「ようわかつたなーーー！」

ペ「でも、めいひくへだね・・・・・

グ「ずっと待つてたよ・・・・・

・・・・・・・・・そつか・・・・・わかつてたんだね・・・・

レ「めんね・・・・・責任は取るから・・・・・

ヒ「それじゃー戻るで・・・・・

元に戻すから・・・・

レ「うん・・・・戾るつ・・・」

グ・ペ・エ・レ「「「処理した・・・世界へ・・・・・・・」」

シユン!!

壊れたニンゲンと決意した人は、元の世界へと転送する

処理された世界へと・・・

5話 大きな決意（後書き）

とりあえず、頑張つてみたんすけど・・・

何かレイン君がヘタレじゃなくなつたすね・・・

感想、アドバイス募集するツス！！

それでは、次回もがんばるつす！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4096ba/>

魔法少女リリカルなのは 交じり合う狂気

2012年1月14日22時57分発行